



# 碧南ロータリークラブ週報

第2619回例会 平成24年11月28日(水)

- 会長 黒田 昌司
- 幹事 木村 徳雄
- 会場監督(SAA) 新美 雅浩

2012-2013 年度 国際ロータリーのテーマ

■例会日 毎週水曜日 12:30 ■例会場 碧南商工会議所ホール  
 ■事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90  
 TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100  
 ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>  
 E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)

■会報委員 菅原優・鈴木泰博・服部弘史・大竹密貴



## ● 齊 唱

ロータリーソング「ロータリー讃歌」

## ● 本日のメニュー

季節のお弁当 とんがり帽子

## 副 会 長 挨拶

最近、一週間、ひと月、一年を感じるのがとても早いです。  
 昔、自分の父親も同じ事を言っておりました。なぜかを考えていたら、次の息子達の代にうまく渡そうと思ってやっていると一日がすぐ終わってしまいます。最終的に土壇場になって自分がやっってすぐ終わってしまいます。こんな事をやっていますと早く感じます。

次の代が活かそうが潰そうがあなた達の勝手でしょ、と考えると長く感じるのではないかと思います。このままだと早く人生を終えてしまう気がしております。ゆっくりと物事を考えるように、怒らないようにしておりますが、性格上難しいです。



倉内裕副会長

## 幹 事 報 告

- ・ 例会変更のお知らせはございません。
- ・ 第6回理事会が12月5日にごございますので、関係者はお願い致します。



木村徳雄幹事

## 委員会報告

### <出席奨励委員会>

総会員数 69 名 (内出席免除者 13 名の内出席者 8 名)出席者 52 名	
出席対象者 52/63 名	出席率 82.54%
欠席者 17 名(病欠者 1 名)	前々回修正出席率 96.83%

※三週連続出席率 100%の場合は記念品を差し上げます。

### <ニコボックス委員会>

西尾 K I R A R A R C 二宮誠二君

先日のガバナー補佐杯ゴルフ大会にて、ホールインワンを達成しました。ありがとうございました。

長田 昌昇君 ガバナー補佐ゴルフコンペ、皆様のおかげで滞りなく終わりました。ありがとうございました。

加藤 良邦君 11月23日、ガバナー補佐杯ゴルフ大会には天候不順の中、長田実行委員長並びに役をつとめて頂きました皆様、又、御参加頂きました皆様、本当に有難う御座いました。深く感謝します。

角谷 信二君 11月23日、ガバナー補佐親睦ゴルフ大会にて優勝と、ガバナー補佐賞を頂いてしまいました。当日、長田昌昇さんと加藤良邦さんに大変お世話になりました。

山中 寛紀君 23日のガバナー杯、久しぶりにクラブを振り、成績はひどいものでしたが、たまの運動で多少なりともリフレッシュ出来ました。お世話頂きました会員の皆様に感謝致します。

吉武 敏彦君 本日卓話をさせて頂きます。よろしくお願い致します。

伊出俊一郎君 本日、私の履歴についてお話させて頂きます。よろしくお願い致します。

## 卓話

「私の履歴書」 新入会員 吉武敏彦君

本日は私の履歴書、という卓話の機会を頂きましてありがとうございます。

碧南ロータリーに入会させて頂いてから半年が経とうとしておりますが、皆様が心温かく接して下さい、楽しく過ごさせて頂いております。この場をお借りしまして会員の皆様に御礼を申し上げます。

私は昭和36年、神奈川県逗子市に生まれました。生後8ヶ月で横浜市に移りましたので、生まれ故郷の記憶は全くございません。

小学校時代は、快活な姉とは違いました。内気な子供でした。高校生になりますとさすがに夢



吉武敏彦君

を見てられないという事で、将来の事を考えるようになりました。年収ランキング上位から職業を探し始め、パイロットや大学教授など無理なものを省いた結果、辿り着いたのが税理士でした。

熱い気持ちで大学に入ったわけですが、会計研究会のクラブではなく、その部屋に行くまでにキラキラに輝いていた部屋に魅了され、即決で別のクラブに入ってしまった。ジャグラークラブという手品のクラブでした。ロータリー入会の際にも趣味を聞かれたのですが、ただでさえ胡散臭い証券マンが、手品が趣味となると余計に胡散臭くなってしまいますので、今まで伏せておりました。大学時代は勉強そっちのけで手品にのめり込んでいました。

3年になりますと部長になりまして、その時にはすっかり税理士の夢はどこかにいってしまっていて、4年生の夏に慌てて就職活動を始めた次第でございます。企業も大量採用をしておりましたので、いくつかの証券会社で内定をもらう事ができました。証券マンになった理由ですが、グローバルに市場の拡大ができる、と難しく考えたわけではなく、当時付き合っていた女性のお父さんが証券マンだったという、とても人に言えない理由でした。残念ながらその彼女とは別れる事になりました。

合併前の東京証券に1985年に入社を致しました。1年間研修をし、その後、横浜西口支店に配属され4年間働きました。

1990年に福岡支店に配属になり、主任や課長の肩書きを与えられて、バブル崩壊に向かっておりまして、1年研修でタダ飯を食べた代償をしっかりと払わされる事になった次第でございます。プライベートの時間など全く無かったように思います。矛盾はしますが、その頃、妻の美加子と知り合い結婚を致しました。当時のマーケットは、バブル崩壊とともに、湾岸戦争の勃発、阪神・淡路大震災などの天災の影響もあり、非常に厳しい環境が続いておりました。

1995年3月、本店営業部に配属になり、「新たな気持ちでスタートするぞ」という矢先に地下鉄サリン事件が起きました。本店営業部のある東京丸の内周辺でも救急車・消防車などがごった返しとなり、大混乱となりました。朝8時頃の通勤ラッシュ時に起きた事件でしたが、朝早い仕事であることが幸いし難を逃れることが出来ました。私も地下鉄を利用していたので、今でも被害者のことを耳にすると、背筋が凍る思いが致します。

1996年3月に、横浜の港南台支店に営業課長として着任しました。また、その年の4月に長女桃香も誕生し、公私ともに充実していた時期でした。しかしマーケットは依然厳しく、同業の三洋証券、山一証券が相次いで破綻しました。当社も非常に厳しく、本社部門のスリム化や課の再編が行われ、その流れで1998年2月に新潟支店に転勤する事になりました。

10年で株価は3分の1になり、当社でも希望退職支援制度が行われました。当時、私は制度の対象年齢に達していませんでしたが、多くの同僚が会社を去ったことを覚えています。この頃、同期も3分の1が残っているかどうかという状況でした。正直な気持ちは、「会社はもう持たないかな」でした。しかし、今でも私たちの間では「神風」と呼んでいるのですが、1999年から訪れたITバブルで、業績が持ち直し、東海丸万証券と合併し東海東京証券となり基盤の充実も図れ、失業という憂き目を見ずに済むことが出来ました。気持ちに少しゆとりが出来た為なのか、2001年12月第2子長男海里が誕生しました。

2004年、新潟支店から広島支店へ転勤となりました。広島支店では上司や部下に恵まれ、

2007年4月の人事異動で松山支店支店長に任ぜられ、初めて支店長として着任致しました。そこで思い出されるのは、2008年9月15日にリーマンショックが起これ、その対応に謀殺された事です。100年に一度と言われた世界的な金融危機へと連鎖していきました。

2010年4月、山梨県の甲府支店に転勤となりました。着任してちょうど1年後に東日本大震災が起きました。外出していた社員も少なかったので社員全員の安全はすぐに確認できましたが、千葉の自宅との連絡が取れず、ようやく安全が確認できたのは地震発生から4時間経った後でした。テレビでは家族が住む浦安地区が大きな被害が出ている様子が映し出されており、生きた心地がしませんでした。

住めば都とよく言いますが、行くところ、行くところ、素晴らしいお客様と素晴らしい仲間に恵まれ、私自身本当に幸せ者だと思います。思い返すと甲府では歴史と文化、素晴らしい自然がありました。松山支店ではお客様とべろべろになるまでお酒を飲んだり、釣りに行ったり、プライベートでもお付き合いをして頂きました。新潟では人の温かさが身に染みしました、また、新潟は美人の多い県ランキング第4位とのことで、美しい女性ともたくさん出会いました。福岡支店では博多弁が聞き取れず困ったことも。碧南でも心に残る思い出をたくさん作っていきたいと思います。また微力ではありますが、ロータリークラブの精神に基づき地域に貢献していきたいと思っております。今後とも変わらぬご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。

## 「私の履歴書」 新入会員 伊出俊一郎君

皆様、こんにちは。7月から会員に加えて頂きました、中部電力の伊出でございます。いつも大変お世話になっております。

本日は、主に大人になるまでの生い立ちについてお話ししたいと思います。



伊出俊一郎君

子供の頃は、サラリーマンの父に連れられてずいぶんあちこちと移り住みました。

父は既に昨年亡くなりましたが、現役時代は銀行員で転勤族でしたが、一度も単身赴任をしたことがなく、我々家族はその都度ついて回りました。

では順番に生い立ちについてお話ししていきたいと思っております。

私は、昭和34年に東京で生まれました。この後は兵庫県の芦屋、四国の高知、再び東京へと1年ごとに移り住んでいます。

物心ついたのは、この2度目の東京の頃ですが、その前の高知時代についても、家の回りの配置とか、いくつか記憶が残っています。2才の時の記憶があるという、なかなか信じてもらえないのですが、大人になってから高知を訪れた時に行ってみたら、間違いなく記憶にあるとおりの配置でした。

2度目の東京では幼稚園から小学校低学年までを過ごしました。場所は文京区目白台というところで、早稲田大学の少し北のところ、すぐ近くには田中角栄の豪邸もありました。学区の関係で幼稚園も小学校も山の手の方に通っていたのですが、友達の家遊びに行くと、たいていはいはお手伝いさんがいたりするようなお金持ちで、ずいぶんギャップを感じたものです。

でもアパートの南向きのベランダからの景色は素晴らしくて、左手に東京タワー、右手には富士山が見えました。

次に、小学校3年から5年の3年間で両親の実家に近い松山で過ごしました。

最初は方言が分からなくて困ることもありました。山や川、お寺の境内や裏山などで、田舎らしい屋外での遊びを満喫することができました。刈り取りの後の田んぼの稲わらの上でプロレスごっこをして、あとで農家の方から大目玉を食ったりしたことも良い思い出です。

東京のころは身体が弱くて、よく学校を休む子供だったのですが、松山に移ってからは年々丈夫になって、5年生の時には1日も学校を休まないくらいになりました。ですから、大好きな松山からまた引っ越さなければならないのは辛いことでした。

次に移ったのは同じ四国の中ですが、香川県の高松でした。有名な観光地の栗林公園と同じ名前の栗林小学校で、小学校最後の1年を過ごしました。ここは非常に教育熱心な土地柄で、塾通いをする子供が多くて、放課後に遊ぶ友達がなかなか見つかりませんでした。

そのまま近所の中学校に上がったのですが、これがまたテストの結果を壁に張り出すようなガリ勉学校で、嫌でしかたがなかったのですが、入学してわずか1ヶ月で、初めてのテストの前に、今度は神戸に移ることになりました。転校が嬉しかったのはこの時だけです。

中1で神戸に移ってからは、途中、隣の芦屋への引っ越しがありましたが、転校はしないで済みましたので、大学1年までの約7年間でまとめて神戸時代と思っています。一番多感な時期を過ごした場所ですので、一番思い入れのある土地でもあります。

中学時代にはロックに目醒めまして、エレキギターを買ってきたのはいいのですが、「バンドをやろう」といって集まろうと思ったら全員がギター、というわけでバンドは成立しませんでした。

高校は市街地の一番山側の端にあって、標高は100m以上もあり、朝の登校は大変でしたが、その代わり眺望は素晴らしく、神戸の街はもちろん、大阪湾全域から淡路島に到るまでが一望できました。中でも一番高いところには立派な天体観測ドームがあって、私はそれに釣られて天文部に入ったのですが、それよりも印象深いのは掛け持ちで入っていた応援団です。私は地声が小さいのでエールはダメでしたが、太鼓を思い切り叩くのは気持ちの良いものでした。野球の兵庫県予選では甲子園球場にも行きましたし、サッカーでは正月の全国大会で国立競技場にも行ったことがあります。ハーフタイムのテレビのインタビューで間抜けな答えをして大恥をかきましたが、今思えば良い思い出です。

大学は京都大学工学部の機械工学科に入りました。子供の頃から自動車など機械ものが好きで、模型作りなども得意だった、というくらいの志望動機です。サークルはマンドリン・オーケストラというのに入りました。1年後輩として入部してきた妻と出会ったのも、このサークル活動を通じてのことでした。まだ19才でしたから、思えば長い付き合いです。

だんだん学業の方がおろそかになってきて、3～4年の頃にはサークルの部室以外ほとんど大学へ行かなくなり、留年が決定。ほとんどドロップアウト状態でした。そこからまともな世界に戻って来られたのは、「このままだと彼女の方が先に卒業してしまう」という当たり前の事に気づいたからです。

最後の5年目はとにかく毎日学校へ行って2年分の単位をかき集めて、卒論も何とか書き上げて卒業にこぎ着けたという次第です。

そんな状況ですから、就職活動をまともにやっている余裕はありません。実は、中部電力に

就職を決めたのは、先輩のリクレーターが研究室に来て「明日までに入ると言えば入れてやる」と言われたからです。それまで中部地方に住んだこともないわけですから「中部電力」の名前さえ聞いたことがありません。何とも乱暴な話です。

友人からは「そんな決め方は信じられない」と言われましたが、「これも何かの縁」とか「悩むだけ無駄」と思っていました。少なくとも去年の3月までは「中電に入って良かった」と思っていました。最近では少し微妙になってきました。

プライベートの方ですが、入社2年目にはこの先も何とかやっていける自信が付きましましたので、3年目の春に結婚。その後、男ばかりですが3人の子供にも恵まれました。自宅は、川越勤務時代に四日市の社宅にいた流れでそのまま四日市市内にマンションを購入しました。碧南までは少々遠いですが、何とか毎日通っております。最近ではずいぶん慣れてきました。

趣味の方ですが、最近はおっぱら水泳とバイクです。週に1回は近所のプールで泳いでいますし、バイクの方は2年前に大型免許を取って中型から大型のバイクに乗り換えたところです。

仕事の方は、基本的には火力関係でしたが、東京支社での官庁対応や、浜岡で原子力を経験するなど、毛色の違う仕事もさせてもらいました。原子力については、私なりの思いもありますので、またいずれお話させて頂ける機会があればと思います。

皆様もご承知のとおり電力を巡る環境には非常に厳しいものがありますが、公益事業の精神を忘れず、精一杯頑張りたいと思いますので、今後とも皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

次回例会案内 平成24年12月12日（水）

卓話「日本の教育について」

会員 犬塚敦統君